

## 学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 八百津高等学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和6年2月15日(木) 15:30~16:45
- 3 開催場所 八百津町ファミリーセンター 講義室
- 4 参加者

会長	渡辺 隆正	八百津中学校長
副会長	山口 茂義	錦津コミュニティセンター館長
委員	松田 義彦	八百津東部中学校長
	武市 由紀子	八百津町教育相談アドバイザー
	安藤 勉	PTA会長
	宮ノ腰美ゆき	八百津町教育委員
オブザーバー	加藤 大博	岐阜県議会議員
	社本 勝義	八百津町教育長
	佐合 智尚	前PTA会長
岐阜県教育委員会	大平 和子	教育総務課課長補佐
	栗田 和輝	教育総務課管理主事
可茂教育事務所	宮島 雅治	教育支援課課長補佐
八百津町教育委員会	井戸 信介	主幹
学校側	岩島 章雄	校長
	浅見 和人	教頭
	兼松 義治	教務主任
	井戸 礼子	生徒指導主事
	吉井 賢吉	進路指導主事
	貝川 友子	記録係

### 5 会議の概要(協議事項)

#### (2) 令和5年度自己評価・学校関係者評価

意見1: ノート学習について、合理的配慮の時代なので一律にノートに書いて覚えさせることは時代に逆行しているのではないか。ノートに限らず、タブレットで写真を撮る方法もある。生徒の取り組みを見届けることが大事なのではないか。

⇒ノート学習は学習習慣を身に付ける一つのきっかけとして行っており、合理的配慮が必要な生徒に対しては個々に適切な学習方法を指導したい。

意見2：デュアル成果発表会で、一人の生徒は原稿を見ることなく、堂々と自信を持って発表しており感心した。今回生徒達の発表を見て共通するキーワードがあった。それは「自ら考えて行動する」という言葉である。発表の中に「自分で」とか「自ら」という言葉がたくさんあった。八百津高校はこれを育てているのだと感じた。八百津高校が目指す「自分を変える」ということは、「自ら考えて行動する」ことで成長していくこと、目標を持って、できなかったことができるようになっていくこと。今日の発表の姿はもちろん、聞く側も私語なく聞いており、先生方がよく生徒を育てていると感じた。気になったことは、会場での先生の指示が多いのではないかと。もっと子どもたちに任せてもいい部分もあるのではないかと。  
⇒生徒による自主的運営を目指しつつ引き続き指導を行っていきたい。

#### (4) 来年度の学校運営について

意見1：グラデュエーション・ポリシーの「自分を変えることができた」の文言は「自分を成長させることができた」の方がよいのではないかと。教育相談の観点から考えると「人は変えられない」が「成長することができる」が適切だと考える。  
⇒次年度のスクールポリシーの策定の際に検討する。

#### (5) その他

意見1：デュアルシステムの素晴らしさを感じた。一人の生徒は「企業の人に一本のネジから読み取ることを教えてもらい、その意味を理解した」と発表していた。彼はこれから強いと思う。地域の方々も暖かく見守って育ててくださったからこそ、今日の発表があった。企業一覧表を見て驚いたことは、八百津高校からかなり遠い企業も協力をいただいている。たった29日間。その中で子どもたちの素晴らしい成長とともに、地域が育てるということを実感した。

#### 6 会議のまとめ

- ・委員より本校への温かい示唆に富んだ意見が得られた。いただいた意見を参考にして、来年度の学校運営に向けて活かしていく所存です。